

公益財団法人アジア保健研修所

2022年度事業計画

(第11期 2022年4月1日～2023年3月31日)

はじめに	1
A. 研修事業	
1. 国際研修	1
2. 研修生へのフォローアップ事業	1
1) 研修生自身への働きかけ	1
2) 所属団体への働きかけ	1
3) その他	2
3. 地域保健推進のための協働事業	2
1) パキスタンでのNGO若手スタッフ育成	2
2) 研修生によるコミュニティ活動の支援 ー参加型評価手法の実践と経験共有	2
3) 研修生間の学び合いの醸成・促進	2
①英文ホームページの活性化	2
②元研修生によるオンライン事例研究会	2
B. 国内活動	
1. アジア理解のためのプログラム	2
1) 「健康と社会」を考える連続講座	2
2) 初めて始めて講座	3
3) 「AHI 講座」	3
4) オープンハウス	3
2. 情報および体験機会の提供	3
1) 情報誌「アジアの健康」の発行	3
2) 情報誌「アジアの子ども」の発行	3
3) インターネットを活用した広報活動	3
4) ボランティア・インターン受入れ	3
3. 他団体との協力	3
1) 他団体への講師派遣・イベント出展	3
2) 外部団体・ネットワークへの加盟	3
3) 他団体との協力による政策提言活動	4
C. 組織強化活動	4
D. 法人運営	
1. 理事会・評議員会	4
2. 賛助会員募集・募金活動	4

はじめに

■健康から社会を見る視点

コロナ禍は、国内的にも国際的にも社会的・経済的に弱い立場の人たちが保健医療サービスを受けにくい状況を露わにした。同時に、多くの人が自分自身もそういった格差のある社会にいることをあらためて認識することとなった。

AHI では、その人の健康は社会においてその人が置かれた立場を反映するものととらえてきた。

言い換えれば、健康は社会の公正性の問題である。

「誰もが尊重され健康に暮らせる社会」というビジョンの下、これをめざしそれぞれの場で行動する人を育むことが今 AHI に求められている。「健康」という切り口で自分の周りの現実をとらえ、どのような社会をめざしたいかを考える学びの場の提供に注力する。

■オンラインによる新たな可能性をてこに、学び合いのコミュニティ創出へ

「誰もが尊重され健康に暮らせる社会」をめざして、AHI の役割はこのビジョンに向けての行動が生まれるよう、国内外の多様な人たちが交流し、学び合いの機会をつくることである。まずアジア各国の研修生同士がそれぞれの活動経験から学び合う機会を重ね、研修生自身の自発的な動きへとつながるよう、学び合いの「コミュニティ」を生み出していく。さらにはこのような学び合いを日本国内での活動と関連させ、日本内外をつなぐものとするよう検討を重ねる。

■支援者の関わりを強め、参加型の組織へ

2020 年度事務局を中心に議論を重ね、AHI のめざすもの、役割、活動のねらいなどを捉え直し、また全体像を描こうとし 2021 年度初めに機関誌に「AHI ハウス」を掲載し、支援者との対話を持つとうと考えていたが、具体化できなかった。支援者との関係強化に努め、今後の活動、組織運営への関わりを生み出すことができるよう、従来のコミュニケーションの媒体・内容を見直す。

A. 研修事業

1. 国際研修

「すべての人びとの手に健康を」を実現するためには、住民にとって保健医療サービスが手に届くものとならなければならない。そのために住民の地域における意思決定への参画が重要であり、そのための能力形成や環境づくりを推進するには、行政をはじめ、多様な分野の関係者との連携が求められる。

昨年度に引き続き「変化をつくり出す次世代育成」をテーマに、地域活動の若い担い手およびその育成に従事する NGO 職員を対象にオンラインで実施する。地域活動を通してどのような社会をめざしたいか。それに向けて地域活動を推進するには、どのようなリーダーシップが自分たちに求められるかについて議論を進める。

*期間 2022 年 6 月 1 日～7 月 2 日 (予定)

*参加者 アジア数ヶ国から 5 組 (若者リーダーと NGO 職員)

*実施方法

1 日あたり休憩を含め研修時間を 5 時間半とし、オンラインツールを用いてワークショップ形式で行う。

2. 国際研修後のフォローアップ事業

研修生が研修で学んだことを、活動の実践や組織の運営に活かすことができるように支援する。

1) 研修生自身への働きかけ

各研修生と適宜連絡をとり、研修後の研修生の活動状況を把握すると共に、研修生が AHI の研修によって得たものが活動に活かされるよう助言、支援する。

2) 所属団体への働きかけ

各研修生が所属する団体と適宜連絡をとり、研修後の研修生の変化を把握すると共に、研修生が研修によって得たものが、活動現場での実践、およびそれを通じて団体内や活動地域の関係者の能

力向上につながるよう、当該団体の代表者や活動の責任者へ働きかける。

3) その他

* 誕生日カード等の送付

元研修生あての誕生日カードや関係団体への年末グリーティングカードの送付によって関係維持や強化に努める。

3. 地域保健推進のための協働事業

1) パキスタンでの NGO 若手スタッフ育成

元研修生の所属団体「エイズ啓発協会」の協働

2021 年度に行った評価の結果を受け、2014 年度からの協働関係の締めくくりとなる研修会あるいは関係者会合を 2022 年度に開催する。

2) 研修生によるコミュニティ活動の支援

—参加型評価手法の実践およびその経験の共有

元研修生が所属するパキスタン、スリランカ、フィリピンの計 4 団体を対象に、「モスト・シグニフィカント・チェンジ (最も重要な変化)」手法を用いた評価活動の実施と、それによる事業の改善を支援する。この手法は、事業の受益者 (住民) にとって重要な質的な変化や当初の計画には想定されていなかった波及的な変化に着目し、それを把握・分析し、事業の改善につなげる参加型のモニタリング・評価手法である。2021 年度末に手法習得のための研修会をオンラインで実施、2022 年度前半を各団体が実際にこの手法を用いてモニタリング・評価を行う期間とする。

従来外部者による評価が一般的である中で、活動の主体となるべき住民の視点、価値観に基づき、活動を評価する当手法によって、上述の 4 団体の活動が改善することのみならず、広く各国の元研修生が当該 4 団体の実施経験から学び、自らの活動で適用することをねらいとし、2022 年度後半に実践報告会を持つ。

3) 研修生間の学び合いの醸成・促進

①英文ホームページの活性化

年に 2 回ないしは 3 回発行の英文ニュースレターに代わり、AHI に寄せられる情報を随時ホームページに掲載する。これによって研修生間の情報交流を促進し、さらに学び合いの場をつくり出すことをねらう。これに向けて、情報共有の機能が活性化するよう SNS を活用する。

②元研修生によるオンライン事例研究会

2022 年 2 月に、国際研修で学んだことをどのように実行に移し、活動を変容させたかについて、3ヶ国の元研修生 4 名が事例を報告した。

今後も引き続き、アジア各国の AHI 関係者が共通して関心を持つテーマの下で、それぞれの経験から学び合う機会をつくる。元研修生の自発性によって開催され、自主的に運営が進められるよう、適宜働きかけを行う。

B. 国内活動

コロナ感染状況に応じて、対面での開催とオンラインの活用を組み合わせる。

また、関係者と AHI のビジョンやその下での AHI の役割について話し合いを進める中で、各活動のねらいや方法についても検討する。

1. アジア理解プログラム

1) 「健康と社会」を考える連続講座

2020 年度から「Helping Health Workers Learn (ヘルスワーカーが学ぶのを助ける)」

(David Werner 他著 1982 年) の翻訳・出版に取り組んできた。2022 年度後半に同書を用いて連続講座を行う。同書は、主に中南米での地域保健活動の実践に基づき著された。自ら健康を守るための知識とスキルの習得のみならず、社会の構造的な問題をとらえ、その解決に向けた行動を促す「学

習」とそれを推進する人の役割について述べている。当講座では、保健・福祉、教育、まちづくりなど多様な活動背景や関心を持つ参加者が参加型の学習を体験し、同書からの学びを自分の関わる社会課題への取り組みにいかに応用できるかを考えることを目的とする。

時期・回数：2022年度後半 4～5回

参加者：12～13名

2) 初めて始めて講座

新規の人を対象に、当団体の理念や活動を紹介するための講座を毎月1回に開催する。その後のAHIとの継続的な関わり(ボランティア活動、プログラムへの参加、財政支援)につながるよう、各参加者の関心、ニーズの把握に注力し、他のプログラムとの連携を図りながら具体的な情報の提供に努める。

3) 「AHI講座」

元研修生などを講師として、アジア各国の状況や活動に関連した学習会やワークショップを随時開催する。

4) オープンハウス

関連する多様な切り口でAHIを知らせるプログラムとして開催する。企画・実施については、ボランティアで組織する実行委員会の主体性を大切にしつつ、準備の過程でAHIのビジョンや、国内外の現状について意見を交わされ、学び合いの場となるよう働きかける。

開催時期など：2022年度半ば～後半

2. 情報および体験機会の提供

1) 情報誌『アジアの健康』の発行

アジア各地の元研修生の活動地域の状況や彼らの活動を伝える。より具体的な情報の提供に努め、読者が身近に感じられるものを目指す。

またボランティア紹介の記事を通して、支援者間の交流もはかる。年に5回、各回約2,500部発行。うち1回は手軽さをねらいとし簡便な形(A4両面)とする。

2) 情報誌『アジアの子ども』の発行

子ども(主対象：小学校高学年以上)向けに、元研修生による地域開発の活動も織り交ぜ、同時代を生きるアジア各地の子どもたちの日常をわかりやすく伝える。年に2回、各3,000部発行。

3) インターネットを活用した広報活動

ホームページにより、不特定多数の新規の人たちに向けた情報発信を充実させる。同時に、SNSを活用し、関係者への情報発信を積極的に行い、その人たちから新規の人たちへAHIの情報が広がるように努める。

4) ボランティア・インターン受け入れ

学生や社会人を対象にAHIの理念を紹介し、またNGO活動を体験する機会を適宜提供する。

3. 他団体との協力

1) 他団体への講師派遣・イベント出展

要請に応じて、学校や諸団体に職員や関係者を講師として派遣し、アジアの状況を伝える。

「小学校で行う国際理解講座」は、日進市内においては、市との協働事業という位置づけで6～7校程度行う。加えて、日進市外の学校についても依頼に応じて実施する。

また、外部の諸団体が行うイベントに出展し、新しい人たちと接点を作ることに努める。

2) 外部団体・ネットワークへの加盟

下記の諸団体に加わり、関連分野の活動を進める。

< >内は職員の各団体における現役職名。

・名古屋NGOセンター

- ・名古屋キリスト教協議会
 - ・障害分野 NGO 連絡会 <幹事・研修研究委員>
 - ・日本キリスト教協議会<常議員>
 - ・カンボジア市民フォーラム<世話人>
 - ・開発教育協会
 - ・日進地域の市民グループ「にしん平和を考える会」及び「次世代の子どもたちの“いのち・くらし・エネルギー”を考える会」
- また、職員が次の関係団体の役職を務めている。
- ・名古屋 YWCA<評議員>

3) 他団体との協力による政策提言活動

名古屋 NGO センター等の加盟団体の一員として、関係機関への政策提言活動を行う。

2020 年度後半に他の 6 団体と共に立ち上げた「新型コロナに対する公正な医療アクセスをすべての人に！」連絡会では、世界貿易機関(WTO)や他の国際機関の動向を把握しつつ、市民向けオンラインセミナーなどの啓発活動を適宜行う。

C. 組織強化活動

1. 支援者と AHI を考える取り組み

2020 年度の事務局内での議論を基に作成した「AHI ハウス」をもって、国内外の関係者と AHI の活動やあり様についての対話を様々な形で持つ。このようなやりとりの中から、今後の AHI の方向性を共有し、支援者の中核となって組織を担う人たを求めていく。また創設以来蓄積した経験や実績を再確認し、今、訴求力を持つメッセージは何かを探る。

D. 法人運営

1. 理事会・評議員会

組織のガバナンスの機関としての評議員会、事

業執行を担う理事会、各々の機能を充実させる。理事会は事務局と協力し、今後の活動の方向性や組織運営の中長期計画について検討する。

2. 賛助会員募集・募金活動

* 「ひとつかみサポーター」(月定額自動引落による支援)呼びかけの強化

東南アジアで伝統的に行われてきた「ひとつかみの米」のストーリーを紹介し、この仕組みの背景を伝え、訴求力のあるものとする。

* 継続率の向上

退会者の半数以上を占める自動退会(3 年間納入がない場合)を防ぐための方策を検討する。

* 「想いを伝える遺言書の書き方講座」

司法書士である元職員の協力を得て遺産相続について、当講座を実施し、遺贈寄付につなげる。

* 法人との協働を通しての働きかけ

既存の支援者である企業などの法人との関係強化、当該企業の社員への働きかけを検討する。それをもとに新規開拓の可能性を検討する。

■会費収入目標 計 12,000,000 円

a) 新規会費(年会費)

平均 5,000 円×目標 28 名 =140,000 円

b) 新規ひとつかみサポーター

月額 1,000 円×目標 30 名×7 ヶ月=210,000 円

c) 継続会費

i) 年会費会員

2,000 件×6,500 円(1 件あたり)×71% (継続納入率)=9,230,000 円

ii) ひとつかみサポーター

200 件×1,000 円×12 ヶ月=2,400,000 円

■寄付収入目標 計 30,000,000 円

a) クリスマス・お正月募金

目標額：15,000,000 円

期間：2022 年 12 月 1 日～2023 年 2 月 28 日

b) 一般寄付

目標額：15,000,000 円